

評価領域	特別活動
------	------

重点目標	・特色のある生徒会・委員会の活動に力を入れる		P
現 状	・後期は、学校行事等が限られているため、日常の学校生活の中では委員会独自の活動が乏しい。		
具体的な目標	・委員会独自の活動を企画・実行し、学校生活を活発にすることで生徒に達成感を持たせる。		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の各生徒会委員会の開催時に、それぞれの委員会が特色のある活動計画を立て、実行できるよう指導する。</li> <li>・日常の活動の中で、生徒の活動参加を指導・支援する。</li> </ul>		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員と環境美化委員が担当している週番活動が定着してきた。</li> <li>・図書委員は新刊紹介コーナーや図書館だよりの作成をはじめ、活発に活動をしている。</li> <li>・後期生徒総会、生徒会役員選挙の開催。</li> </ul>		D
達成状況	・顧問の指導や工夫により、委員会独自の活動が活発になってきたが、年間を通じて活動できる計画立案が必要である。		
自己評価	(評価) B	(根拠) ・年度当初における、委員会の活動計画の段階での指導が徹底できなかった。来年度、委員会の位置づけ・活動計画を明確にしたい。	C
↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	A	日頃の活動を外部から評価することは難しいが、文化祭等で、しっかりと活動していることが伺えた。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	委員会との統合などを行い、各委員会の活動を分担化し、役割が重複しないような計画を立案する。学校内に限らず、学校外でもボランティア活動などを積極的に行い、学校生活の充実や改善を図れるようにしていきたい。		A